

設備工事情報シート	衛 生	I-P-16	制定 改訂	2017年3月1日
I. 施工要領	災害用トイレ配管システム		クボタケミックス編	
1. 目的・概要	<p>災害発生直後、速やかに設営し機能させなければいけないのがトイレである。全国の避難所となる学校や公園では、マンホールの蓋を開けるとトイレとして使用できる災害用トイレ（マンホールトイレ）の設置が増加している。一般のマンホールトイレは、公共下水道が使用できないと汚水を流せないため、下水管路の耐震化が前提条件である。</p> <p>以下、下水管路直結の「直結型」と、下水管本管が被災しても汚水を貯留できる「貯留型」の紹介と施工手順について紹介する。</p>			
2. 構造	<p>(1) 直結型 … 衛生的、経済的、コンパクト配管が可能な直結型</p> <p>2011年の東日本大震災では、本システムが実際に使用された。</p> <p>特に下水管路が耐震化された地域向け。</p> <p>(2) 貯留型 … 直結型のメリットに3日間の貯留機能をプラス</p> <p>下水管本管が被災しても、レジンコンクリート製貯留槽に3日間、し尿と洗浄水を貯留することができる。下水管本管が被災していなければ、直接下水道へ直接流せる2ウェイ方式。</p> <p>特に下水管本管が耐震化されていない地域向け。</p>			
3. 標準配管例	<p>リブ可とうマンホール継手使用例</p> <p>リブ上流用マンホール継手使用例</p>			
<p>塩ビ製マス変換使用例</p>		注:この情報シートは日建連の基準、規格ではありません		